

畑かん営農情報

大崎町で行った畑かん営農試験の情報です

1. 実証課題名 露地野菜の水利用効果について

2. 目的 露地野菜の水利用効果と輪作体系（H14実証区）の実証を行う。

3. 実証実績 ①栽培実績 前作物名（さつまいも） 実証作物名（里芋，後作＝抑制^{かぼちゃ}南瓜）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作付体系	⊃		×		×	○			×	△	⊃	
水利用 (回数等)	かん水	かん水										
作業内容	トンネル 除去			収穫	かぼちゃ 南瓜 播種				かぼちゃ 南瓜 収穫	定植 被覆		

(凡例：○播種，△定植，⊃トンネル被覆，×収穫)

②実証内容

- ア) 品種名 石川早生
- イ) 定植日 平成15年1月20日～2月10日
- ウ) 収穫日 平成15年6月30日～8月18日
- エ) 作式 トンネル栽培
- オ) かん水方法
 - a) 方法 スプリンクラーによるかん水
 - b) 時期・量 トンネル除去時期の5月から6月にかけて，かん水を10回行った。
30トン/1回



スプリンクラーによるかん水

4. 収量調査

区分	収量 (kg)				単価 (円)	生産額 (円)	経営費 (円)	所得 (円)
	A品	B品	外	合計				
実証区	3,880	0	0	3,880	177	686,760	267,590	419,170
対照区	3,283	0	0	3,283	177	581,091	263,990	317,101
比率	118.2%	0.0%	0.0%	118.2%		118%	101%	132%

※単価は，委託者本人の7月出荷の平均単価とした。

5. 考察

実証区は，トンネルビニール除去後から，スプリンクラーによるかん水を実施し，対照区より18.2%の増収となり，水利用効果を確認することができた。

次年度は，定植後からかん水が実施できるように，畦内チューブによるかん水との水利用効果比較を実証する計画である。

